

創造性・クリティカル・シンキング(批判的思考)能力

一長文読解が全教科で求められる、大学入試共通テスト、高校入試、
公立中高一貫校・私立中学校入試に、ゼロベースで備えよう

開倫塾

塾長 林明夫

Q：1月14日に行われた大学入試共通テスト英語リーディングの問題は、すべて英文で35ページ(試験時間80分)でしたね。

A：(1) 昨年も長かったです、今年も同様でした。数学、理科、社会、国語も長文化の傾向がみられ、この傾向は変わらないと考えられます。

(2) 試験時間 80 分で 35 ページの英文を読み解き正解を導くには、英検 2 級レベルの英語の文章を、論理的・分析的に読み解く力、本格的な英語の「読解力」が求められます。

(3) 英語以外のすべての教科にも、各教科内容の本質的理解と同時に、長文化する問題を読み解く「読解力」が求められます。

(4) 各教科の問題は、単なる知識を試す問題ではなく、問題文を論理的・分析的・正確に読み解き、正解を導く出題がなされています。

(5) この出題傾向と長文化の傾向は、大学入試共通テストだけではなく、都立高校を筆頭に公立・私立高校入試、公立中高一貫校・私立中学校入試にも及んでいます。

(6) 従来のような、コツコツ型・暗記型・条件反射型の受験対策勉強では対応できない出題が大半といえます。

Q：大学入試共通テストはじめ、各入試の出題者は何を狙っているとお考えですか。

A：(1) 大学教育や高校教育では、課題解決のためのアクティブ・ラーニング(反転学習)や、探究型学習が主流となり、「創造性(クリエイティビティ)と批判的思考(クリティカル・シンキング)」が求められるためです。

(2) 教科書レベルの基本的な知識は、インターネットやオンライン教育で修得。大学や高校の授業は、課題を発見してその原因を推定、解決策についての論点整理。ではどのような行動をとればよいかを主体的に決定し、具体的に行動する。それらのプロセスを、自ら振り返り、自己点検し、自己評価、省察につなげる。

(3) このような、「自律的に行動する力」をこれからの社会で求められる能力、「主体的に学ぶ力」を「学力」と考える。

(4) そして、「多様な選択肢のある人生を歩む」こと、「正常に機能する社会の形成に貢献する」ことを、「よく生きる」こと、「教育の目的」とする。

- (5) 学校で教え学ぶことの意味は何か、それは、創造性(クリエイティビティ)と批判的思考(クリティカル・シンキング)だからと考えます。
- (6) 大学教育や高校教育の前提として、教科書レベルの知識に裏打ちされた、本格的な「読解力」が求められるのは、当然の流れと考えます。

Q：なぜ「創造性と批判的思考」なのですか。

- A：(1) 現代社会は、「知識が基盤になった社会(知識基盤社会)」であり、そこでは、「知識情報技術を相互作用的に用いる力」が求められます。
- (2) また、現代社会は、「グローバル社会」で、そこでは、「多様な集団で交流する能力」が求められます。
- (3) これらに加えて、現代社会は、ロシアによるウクライナ侵攻や中国の台頭、米国の政治的混乱、新冷戦などを含む地政学的リスクや、気候変動リスク、低頻度巨大災害など、人類が今まで経験したことのない様々な課題が山積みしている「課題山積社会」だからです。
- (4) ただし、AI(人工頭脳)やIoT(もののインターネット)はじめ高度情報技術が指数関数的に発展を遂げている時代でもあります。現代社会で最も求められるのは、膨大な情報を論理的・分析的・正確に読み解く「読解力」であると断言できます。
- (5) 「創造性と批判的思考」と「読解力」を駆使して初めて、現代社会の様々な課題を解決することができるかと確信します。
- (6) 大学入試共通テストや高校入試、公立中高一貫校・私立中学校入試の長文化と、本質的理解を求める出題傾向は、現代社会の要請、大学や学校で求められる「創造性と批判的思考」を育てる教育・研究に合致するものと高く評価します。
- (7) 「創造性と批判的思考」は、イノベーションの源泉です。これからの社会を支える人材を育成する、大学や高校・中学校で教え、学ぶ意味に合致したものです。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

- A：(1) 教科書レベルの基本的内容は、従来以上にしっかり予習したうえで、レッスンプランに基づいた授業を行い、「物事の本質的理解」を目指す。
- (2) 同時並行して、「効果の上がる学習方法」を「理解」「定着」に分けしっかり指導。特に、「予習」の目的(よくわからないことをはっきりさせて授業に臨むのが予習の本来の目的)と、「復習」の目的(授業での理解を深めること)、「定着」の具体的方法(音読練習、書き取り練習、計算・問題練習)をしっかり身に着けさせる。
- (3) 「辞書・新聞・読書・図書館」に親しませ、「学習習慣」になるまで徹底指導。長文化する入試問題を試験時間内に、論理的・分析的・正確に読み解き、正解を導く、本格的な「読解力」を育成する。
- (4) 中学生・高校生から、各教科の古典に親しませ、「著者との時空を超えた対話」を目指す。
- (5) 英語は、英検各級の過去問10年分と、英字新聞で「読解力」を身に着ける。

Q：最後に一言どうぞ

A：僭越ながら、今月も先生方がお読みになれば必ずお役に立つ本をご紹介します。よろしくお願いいたします。

- (1) 1冊目は、小川原正道編「独立のすすめ、福沢諭吉演説集」講談社学術文庫、講談社 2023年1月11日刊です。諭吉は、今まで日本の政治文化になかった、英語の speech を「演説」と翻訳し、自ら慶應義塾に「三田演説館」や、日本最初の知識を交換し世務を諮詢、交際するため「交詢社」を設立。時事新報という新聞社も設立。演説、言論を通して、日本の近代化を牽引しました。
- (2) 2冊目は、OECD 教育革新センター編著「創造性と批判的思考、学校で学び教えることの意味はなにか」明石書店 2023年2月7日刊です。今回のテーマにぴったりの新刊です。大学入試・高校入試・公立中高一貫校入試・私立中学校入試の担当の先生方の必読書です。必ずお読みください。必ずお役に立ちます。
- (3) 3冊目は、リチャード・オヴェンデン著「攻撃される知識の歴史、なぜ図書館とアーカイブは破壊され続けるのか」柏書房、2022年5月6日刊。ハリーポッターのロケ地、オックスフォード大学の図書館長である著者が、図書館の「価値(大切さ)」と、「人類社会にとっての意味」を熱く語ります。図書館ファンだけではなく、知識とは何かを考えるすべての先生方への警鐘の一冊。示唆に富みます。
- (4) 4冊目は、ハンナ・アーレント著「政治とは何か」岩波書店 2004年4月27日刊です。2月24日、ロシアによるウクライナ侵攻から1年が経過。全体主義を真正面から考えたハンナ・アーレントのこの「政治学入門」は示唆に富みます。
- (5) 5冊目は、宇野重規著「日本の保守とリベラル、思考の座標軸を立て直す」中央公論新社刊、2023年1月10日刊です。各時代の政治思想を積み上げ、思想的座標軸を築き、政治哲学の議論を積み重ね、新たな問題に対処すべきという宇野先生のご意見に賛成。本書は、同著「政治哲学へ、現代フランスとの対話」東京大学出版会、2004年4月20日刊の日本版。
- (6) 6冊目は、南川高志著「マルクス・アウレリウス、『自省録』のローマ帝国」岩波新書、岩波書店、2022年12月20日刊です。紀元2世紀、ローマ帝国の最盛期を実現したマルクス・アウレリウス。名著、マルクス・アウレリス著『自省録』岩波文庫、岩波書店 1956年10月25日刊とともにお読みください。唐の繁栄を築いた太宗の「貞観政要」を思い起こさせます。
- (7) 7冊目は、来年、2024年のNHK大河ドラマの「予習」を兼ねて、「源氏物語」に挑戦。谷崎潤一郎訳「源氏物語 1～5巻」中公文庫、中央公論社、1973年6月10日刊です。国語の先生や元気のある先生は、岩波文庫の最新版「源氏物語」を横に置き、谷崎潤一郎や与謝野晶子の現代語訳を行きつ戻りつしながら、源氏物語に挑戦しましょう。
- (8) 8冊目は、シェイクスピア作・福田恒存訳「マクベス」新潮文庫です。日本の古典の代表作「源氏物語」に2～3年かけて挑戦するのなら、英国の古典の代表作、シェイクスピアの全作品に3～4年かけて挑戦するのも一興です。今月は「マクベス」をおすすめします。読み終えたら、BBC制作のCDを皆様でご鑑賞ください。

2023年2月12日記